## 【検討単語の確定について】2021年度 第3回本委員会 【結果の記入方法】創作手話…◎ 合成手話…○ 組み合わせ…● アレンジ…ア 保存手話…保 ラベル追加…△ 検討不可…×

	単語:読み方	, 意味、解説(『百人 一首大辞典』など)	参考		結果	表現の仕方	本委員会結果	検討経緯			
			学校の手話―68	北海道		参考の通り					
				東北	0	和歌 + 書く + 人					
				関東	0	口元の端に2指をあてる + 空書「人」		9班の案を見ると、2動作目が<人><男>に分かり			
				北信越	保	和歌 + 人(テキスト通り…男)		れている。「人」というよりは個人を意味するので <男>が合う。女性の歌人もいるので、状況に合れ			
1	かじん <b>歌人</b>	歌をよむ人。		東海	•	左手を口に当て、右手で文字を書く仕草の後、 「人」を書く	● 組み合わせ	せてく男><女>を使えばよい。			
				近畿	×	学校の手話でOK	MIO) 11 17 C	⇒<短歌>+<男>(女性の場合は<女>で表現)			
				中国		学校の手話96と同じ手話 + 男		※北信越、中国、四国、九州班の案を採用			
				四国	•	/和歌/ + /人/					
				九州		口元の端に2指をあてる + 空書「人」					
			学校の手話-96	北海		(動画では、学校の手話と同じとなっている) 参考の通り					
				東北	0	和歌 + 書く					
				関東	0	ロ元の端に2指をあてる					
		中国の満計に対する日		北信	保	(テキスト通り)		9班の案を見ると、標準手話の<和歌>と口元の に2指をあてる表現に分かれているが、今ある手記			
2	<sup>わか</sup> 和歌	中国の漢詩に対する日 本の歌のよび方で、		越東海	•	左手を口に当て、右手で文字を書く仕草	Δ	を採用することに。			
-	和歌	「やまとうた」などと いわれる。		近畿	×	学校の手話でOK	ラベル追加	⇒<短歌>と同じ			
				中国	•	学校の手話68 そのままで良い		※北海道、東北、北信越、東海、近畿、中国、四 国、九州班の案を採用			
				四国	×	「和歌					
				九州	^	口元の端に2指をあてる(動画では学校の手話と同					
				北海		E)					
				道	•	和歌 + 本					
				東北関東	0						
				北信	• (II	「和歌」+「集める」(指先下向きで)		9班の案を見ると、「集」の表現が<本><集める >に分かれている。意味を考慮すると<まとめるこ			
3	わかしゅう	和聊大集场大士		越	保	和歌 + 集める	•	が合うとの意見もあり、意見が分かれた。採決の意見もあり、意見が分かれた。採決の意見もあり、意見が分かれた。採決の意見を表している。			
J	わかしゅう <b>和歌集</b>	和歌を集めた本。		東海	•	左手を口に当て、右手で文字を書く仕草の後、「本」	組み合わせ	⇒<短歌・和歌>+<まとめる>			
				近畿	•	「No.2の和歌」+本		※班の案を採用なし			
				中国	•	和歌の手話 + 本		NAME OF CONTRACTOR			
				四国	•	/和歌/ + /本/					
				九州		「和歌」+「集める」(指先下向きで)					
	勃撰和歌集	天皇や上皇の命令に よって選ばれた和歌 集。		道	•	天皇+(左手札を持つ手から)選ぶ + 本	● 組み合わせ	9班の案を見ると、「天皇+選ぶ」「賜る」「天皇 +命令」「天皇から命を受ける」など複数ある。 「命令」ではなく「選ぶ」で意味は伝わるのではないかと、意見が分かれた。			
				東北	0	もらう + 和歌 + 書く					
				関東	ア	人差指を上から顔に向けて動かす(任命される) + 「和歌集」					
				北信越	0	天皇皇后 + 命令 + 和歌					
4				東海	•	「天皇」+「選ぶ」+ 同上					
			<b>未</b> 。	近畿 ○ 上から「命令」+「№3の別	上から「命令」+「No.3の和歌集」		B・ 選択>+<和歌集>(短歌・和歌+まとめる)				
					中国	•	天皇+選ぶ+和歌+本		※北海道、東海班の案を参考		
				四国	•	/天皇/ + /指名される/ + /和歌/ + /本/					
				九州		人差指を上から顔に向けて動かす(任命される)+「和歌集」					
				北海道	ア	両掌を前に向け親指をつけ鳥 + 時代					
		奈良盆地南部の飛鳥地 方を都とした推古朝前 後の時代。 (広辞苑第 6 版)		東北	ア	みずら髪のしぐさ		9 班の案を見ると、羽をばたつかせる動作、そのまま斜めに上げる動作、聖徳太子がしゃもじを持つ動作、髪型の特徴などが見られるが、検討した結果奈良県でし前から使われている表現を採用することに。 (羽をばたつかせない) →親指を交差させた両手をそのまま斜め上へ上げる ※四国歌の業を採用			
				関東	保	両手の親指を組んで4指を羽ばたかせる + 「時代」					
				北信	0	笏(しゃもじのような細長い板)を持つ仕草(聖					
5	飛鳥(時代)			越東海	•	徳太子がいつも持つ板) 飛ぶ + 「時代」	保 保存手話				
	TEMB (MJ 16)			近畿	•	両手を羽根を広げた鳥のようにして2回上へは					
				中国	•	ばたく 飛んでる+時代					
				四国	•	/鳥が飛ぶ様子(奈良の手話より)/ + /時					
				九州	•	代/ 両手の親指を組んで4指を羽ばたかせる +					
							学校の手話-352			「時代」	
			, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	道		参考の通り					
		桓武天皇の平安遷都か			東北	• /!!	平 + 安心 「平」両手を左右に引き離す + 「安心」+		9班の案を見ると、だいたい同じ表現。		
				関東 北信	保	「時代」		2動作目、標準手話は指先を向き合わせ、『学校の			
_	alaké. Pitha	ら鎌倉幕府の成立まで 約400年の間、政権の中		越	0	平 + 安 + 時代	ア●	手話』は、指先は前向き。標準手話を採用するかと うか意見が割れたが、『学校の手話』の表現を採用 することに。			
6	平安(時代)	心が平安京(京都)に		東海	•	両手で「平」の後、「安心」	アレンジとの 組み合わせ				
		あった時代。 (広辞苑第6版)		近畿	ア	「平成」+「安全」		⇒<安定>+指先斜め前向きで<安全> (学校の手話ー352の動作)			
				中国	•	学校の手話352手話 + 時代 /平/ + /安心/ + /時代/ (学校の手話		※班の案の採用なし(指先の向き)			
				四国	•	より)					
				九州		「時代」 (学校の手針)					
			学校の手話-355	北海 道	L	参考の通り					
				東北	•	鎌 (グー) + 動く		9班の案を見ると、ほとんどが鎌で刈る動作。大付			
		海虾和总体会运生生产		関東	保	「鎌倉」稲を鎌(右手「ヌ」) で刈取る + 「時代」		9 玩の条を見ると、ほどんどか録で刈る動作。入1 の表現もあり、なるほど。 神奈川県鎌倉市の表現は、2 回刈る動作だが、1 [			
		源頼朝が鎌倉に幕府を 開いてから、1333年		北信越	保	(テキスト通り)		にするか。2回にするか検討した結果、シンブル			
7	鎌倉(時代)	(元弘3) 北条高時の滅 亡に至るまで約150年間		東海	0	両手を丸にし、お腹に当てる(鎌倉大仏)	保 保存手話	1回とすることに。			
		の称。		近畿	•	「鎌」+「倉」	冰竹工品	⇒左手拳の下で、鎌で刈るように人差指を曲げた 右手			
		(広辞苑第6版)		中国	•	学校の手話355手話 + 時代		- を動かす (1回)			
				四国	•	/鎌/ + /時代/ (学校の手話より)		※北海道、東北、関東、四国、九州班の案を採用			
				1			「鎌倉」稲を鎌(右手「ヌ」) で刈取る +				

	1	T	WH = T=T OF	d n.v-										
			学校の手話-356	道		参考の通り		9班の案を見ると、 <部屋・○○室>+<町>の案が多いが、<町>の						
	むろまち じだい	足利氏が政権を握り京 都室町に幕府を開いた		東北 ● 部屋 + 町		表現が微妙に違う。								
				関東	•	「部屋」+「町」+「時代」		「室」…京都の御室にろう学校がある。「御室」=「部屋」の表現を採用することに。 「町」…左から右へ若干手首を返しながら指先を2						
•				北信越	保	(テキスト通り)	•	回(わたしたちの手話)あてるか、3回(学習辞典 I・学校の手話)あてるか?で意見が分かれた。						
8	室町(時代)	時代。		東海	•	「部屋」+「町」	組み合わせ	また、手首を返さない案もあるが、どうするか検討。						
		(広辞苑第6版)		近畿	•	「ム」+「ロ」+「町」								
				中国	•	学校の手話70手話 + 時代 /部屋/ + /町/ + /時代/(学校の手話よ		⇒<部屋・○○室>+<町(わ2-20)>(若干手 首を						
				四国	•	9)		返しながら2回)						
			労せの王廷 2F1	九州		「部屋」+「町」+「時代」		※東北班の家を採用						
			学校の手話-351	道		参考の通り		9班の案を見ると、2動作目が「政治」「指示す						
				東北	•	王 + 官 + 所		る」「省」など複数ある。 「省」は標準手話の単独ラベルがなかったので確定						
				関東 北信	•	「天皇」+「指示する」+「場所」	<省>	することに。						
	A . A	天皇が政治を行うとこ		越	0	天皇 + 政治(立てた手は5本指) + 場所	保存手話	<省>> ⇒<厚生労働省 (2004-18) >などの「省」						
9	きょうてい 朝廷	ろ。		東海	•	「天皇」+「政府」+「場所」 学校の手話の「天皇」部分を正しく表現、あと	<朝廷>							
				近畿		II O K	組み合わせ	<朝廷> ⇒ <天皇陛下)・皇位>+<省>+<場所>						
				中国	_	そのままでよい   /天皇/ + /省/ + /場所/ (学校の手話		(「天皇」の標準手話は右手だけを上げる)						
				四国	•	上り) 「天皇」+「指示する」+「場所」		※北海道、東北、東海、近畿、中国、四国、九州 班の東を採用						
			WH = T=T 70	九州		(動画では学校の手話となっている)								
			学校の手話-70	北海道		参考の通り								
				東北	•	漢字 + 書く 「漢子」左掌に5指を囲げた石手甲を2回つげ								
		中国の古典詩。一句四 言・五言または七言を		関東	保	る + 右手「シ」を口元につけて手首返しなが を 当		9班の案を見ると、2動作目の表現が、文字を書く						
		主とし、平仄(ひょう		北信越	0	漢字の「漢」+ 文字を縦書き		動作とく詩>に分かれる。 中国の古典詩のことなので、標準手話のく詩>を使						
10	かんし <b>漢詩</b>	そく)・押韻などの規 則があり、古詩・楽府 (がふ)・絶句・律 詩・排律などの種類が ある。 (広辞苑第6版)		東海	0	「漢字」+ 左手で指文字「し」+ 右手で文字 を書く仕草	ア● アレンジとの	うことに。						
	25C 104			近畿	ア	「漢字」の最初の表現 +「詩」	組み合わせ	⇒<漢字>の1動作目+<詩>						
			ある。 (広辞苑第6版) 中国 ● 漢字 + 書く (広辞苑第6版)		中国	•	漢字 + 書く		※北海道、東海、近畿、四国班の案を採用					
				/漢字/ + /左手指文字「し」+ /右手 書 く/「詩」(学校の手話より)										
				九州		「漢子」  「漢子」  大学にも指を囲げた石手中を2回つげる  十 右手「シ」を口元につけて手首返しなが								
				北海	^	た前に中本		+						
		標準節点を注意を表す。 「五 五 下。 「五 下。 「五 下。 「五 下。 そです一点 がき できるを かってる でってる でんこく でんこく でんこく でんこく でんこく でんしい ア・5の でんこく ア・		道	Δ	「声」にラベル追加								
	56.		十音順」など。 節の下が単語。その下 に来る音のことです。	十音順」など。 節の下が単語。その下		東北	0	「お」指文字(左)+ 点(同時性)						
					関東 北信	0	人差指で上から下へ波線を書く		9班の案を見ると、「声」、指文字など複数案がある。					
11				越	0	指文字の「お」で○○と表す 左手の人差し指と親指を広げ、右手の人差し指	△ ラベル追加	今ある手話を使えないか?も含めて検討。 ⇒ <音 (おと) > と同じ (2指で輪を作った右手指先を耳に近づける) ※逝の楽の採用なし						
11	音			東海	•	と親指を狭くして、前に出す								
		など。 (goo国語辞書)		近畿	ア	「声」の表現を小さく表現								
		<音(おと)>、の手話 はあるが、文字の場合 は表現が異なるか検討	<音(おと)>、の手話	中国		指文字								
				四国	•	指文字「お」「ん」								
		してください。	してください。	CCCEeti.	UCC/Eeu.		九州		人差指で上から下へ波線を書く					
		五音、七音はリズムの ある音の数のこと。 五音、七音のまとまり のことを「句」とい う。	ある音の数のこと。 五音、七音のまとまり のことを「句」とい			道	•	[5] + [声]						
					東北	0	「5」(左)+ 点(同時性)							
				五音、七音はリズムの	五音、七音はリズムの	五音、七音はリズムの	五音、七音はリズムの	五音、七音はリズムの		関東北信	•	数字「5」+「音」		9班の案を見ると、「5」と「音(おん)」についてそれぞれの案とを組み合わせている。
12	ごおん				越東海	•	5 + ○○(縦に並べて表現)	0	⇒左手<5>と右手<音(おと)・音(おん)>の合					
12	五音				<b>光</b> 傳	ア	左手で「5」、右手の人差し指と親指を広げる 「五」+「No.11の音」	合成	成					
					中国		五 + おん		※班の案の採用なし					
				四国	•	/5/ + 指文字「お」「ん」								
				九州	_	数字「5」+「音」								
				北海	•	「7」+「声」								
				東北	0	「7」(左) + 点(同時性)								
				関東	•	数字「7」+「音」		9班の案を見ると、「7」と「音(おん)」につい						
		五音、七音はリズムの		北信越	0	7 + ○○(縦に並べて表現)		てそれぞれの案とを組み合わせている。						
13	しちおん 七音	ある音の数のこと。 五音、七音のまとまり		東海	•	左手で「7」、右手の人差し指と親指を広げる	〇 合成	⇒左手<7>と右手<音(おと)・音(おん)>の合 成						
	5 8	のことを「句」とい う。		近畿	ア	「七」+「No.11の音」	山灰							
				中国		七 + おん		※班の案の採用なし						
				四国	•	/7/ + 指文字「お」「ん」								
				九州		数字「7」+「音」								
				北海道	ア	左手札を持つ手に「句」を3回置く								
				東北	•	単語								
				関東	0	左掌に曲げた右手親指と人差指の指先を付ける								
		『新しい手話2015』-		北信越	0	(テキスト通り)								
14	句	74 に標準手話あり。 そのままとするか、		東海	•	左手の人差し指と親指を広げる	そのまま	9班の案を見ると、標準手話のままでよいとしているため変更なしとするため、動画は出さない。						
		新しい表現を加えるか ご検討ください。		近畿	0	A:標準手話の通り、B:詩を書くしぐさ		ここの女人のひとするにの、 別問は出てない。						
				中国		そのままで良い								
				四国	×	2 0 1 5 - 7 4								

	т		1	11.56~												
				北海道	•	上、上手 + 句										
		言葉や文を形作るため の区切りで、5・7・		東北	•	上 + 単語		9班の案を見ると、「上」+「句」の案が多いが ちょっと意味が伝わりにくいのではないか?								
				関東	•	「上」+「句」		北信越班の左手を添える案 (五七五七七の意味) か 分かりやすい。								
				北信越	0	左手は5本指(五七五七七の五行の意味) + 上の3本の隣で「句」を表す	_	「上」の表現は複数あるが、どれが使いやすいかす 計。								
15	ため句	5の部分		東海	•	両手の人差し指と親指を広げて両手を重ね、上 の手を前に出す	〇 合成	************************************								
	•	(百人一首:基本単 語)		近畿	0	「上」+「No.14のB 句」		C (漢字の形) 十左手残したままく句>								
				中国	0	句 + 上		/ (菓子の形) する子及じたよるへ利/								
				四国	•	/上/ + /句/		※北信越班の案を参考								
				九州		「上」+「句」										
				北海道	•	下、下手 + 句										
				東北	•	下 + 単語										
				関東	•	「下」+「句」		9班の案を見ると、「下」+「句」の案が多いが ちょっと意味が伝わりにくいのではないか?								
		言葉や文を形作るため		北信越	0	左手は5本指(五七五七七の五行の意味) + 下の2本の隣「句」を表す		北信越班の左手を添える案(五七五七七の意味); 分かりやすい。								
16	ドの句	の区切りで、7・7の 部分		東海	•	両手の人差し指と親指を広げて両手を重ね、下	〇 合成	「上の句」は、<上C>(漢字の形)を使ったので、同様に<下C>を使うことに。								
	POZEJ	(百人一首:基本単語)		近畿	0	の手を前に出す	口风	⇒指を広げ観指を上にした左手の横で、右手ぐ下								
		847		中国	0	「下」+「No.14のB 句」 句 + 下		C〉(漢字の形)+左手残したまま<句>								
				四国	•	/下/ + /句/		※北信越班の案を参考								
				九州		「下」+「句」										
			参考: <歌会始	北海		参考の通り										
			の儀>2021-17	東北	•	和歌 + 書く + 会										
				関東	•	「歌」+「会」		9班の案を見ると、ほとんどが<和歌>+<会>。								
				北信誠	0	(テキスト通り)		「歌会始の儀」(『新しい手話2015』—17掲載)ではく会>を使っていないが、百人一首関連用語な								
17	<sup>うたかい</sup> <b>歌会</b>	歌人集まって、		東海	•	「和歌」+「会」	● 組み合わせ	でく会>をつけることに。								
	W/ 25	歌をよみあげる会。		近畿	•	「和歌」+「会」	組の日初せ	⇒<短歌・和歌>+<会>								
				中国	•	和歌 + 会		※北信越、東海、近畿、中国、四国、九州班の東 を採用								
				四国	•	/和歌/ + /会/										
				九州		「歌」+「会」										
	うたまくら <b>歌枕</b>	歌によまれた地名のこと(百人一首:基本単語)		北海道	•	歌 + 枕		9班の案を見ると、ほとんどが同じ表現。意味に合 うので採用することに。								
				東北	•	和歌 + 書く + 場所										
				関東	•	「歌」+「有名」+「場所」										
				北信越	0	和歌 + 場所										
18				東海	•	「和歌」+「場所」	● 組み合わせ	⇒<短歌・和歌>+左手残して右手<場所>								
					語)	語)	語)	語)	語)	語)		近畿	•	「和歌」+「場所」		※東海、近畿班の案を採用
				中国	•	和歌 + 場 + 名										
				四国	ア	/和歌/ の表現の上部に/場/の手話を乗せる										
				九州		「歌」+「有名」+「場所」										
		言葉に具体的なイメージをあたえる表現。ある言葉を導き出すために、前置きとして使		北海道	•	左手「句」の下に右手で「句」二回		「序詞」「枕詞」をあわせて検討。 「序詞」とは、言葉に具体的なイメージを与える!								
				東北	•	「単語」(上)+「単語」前に出す		現、また、ある言葉を導く出すために、前置きとて使う。								
		う。リズムを整えた  り、印象を強めたりす		関東北信	•	「思い出す」+「音」		また、「枕詞」は、ある特定の言葉を導き出すた。 に、前置きとして使う。								
	the state	る働きをする。		越	0	連れてくる + 句 「導く」+ 両手の人差し指と親指を広げて両	•	9班の案を見ると、〈案内・誘導〉を使う班がある。								
19	序詞	枕詞に似ているが、大字に対しているが、大字に対しているが、大字に対している。 に対している。たけいはでは、大字に対している。 はいりも決定では、大字に対している。 はいりは、大字に対している。 はいりは、大字に対しているが、基本に対しているが、基本に対しているが、基本に対しているが、基本に対しているが、大字に対しているが、はいましているが、はいましているが、はいましているが、はいましているが、はいましているが、まればいるが、たっにはないましているが、たっにはないましているが、まればいるにはないましているが、まればいるにはないましているが、まればいるではないましているが、たっにはないましているが、たっにはないましているが、たっにはないましているが、まればいるではないましているが、まればいるではないましているが、まればいるではないではないましているが、まればいるではないではないではないではないましているが、まればいるではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	に対し、序詞には長い ものもある。また、枕		東海	•	手を重ね、上の手をつける	組み合わせ	が、「枕詞」で使う方が意味に合うのではないか。							
					近畿	ア	左手は「和歌」で、右手は「最初」+「和歌」 の書くしぐさ		家もいいが、<過去(前)・事前>の方が意味に合							
				中国	•	イメージ + 言葉										
				四国	0	左手「れ」を少し丸めた形を前向き + /書く		⇒<過去(前)・事前>+<句>								
			学校の手話-111	九州		「思い出す」+「音」		※班の案の採用なし								
		ある特定の言葉を道き	テスツテ語「川	道	_	参考の通り		「序詞」「枕詞」をあわせて検討。								
		ある特定の言葉を導き 出すかざりの語。もと もとは意味のある語で したが、やがて印象を	出すかざりの語。もと		東北	•	「単語」前に出す + 「単語」(下) 「句」の右手2指の上に左手2指を乗せる +		「序詞」とは、言葉に具体的なイメージを与える: 現、また、ある言葉を導く出すために、前置きと							
				関東北信	0	「音」		「現、また、のの言葉を導く出すために、削直さとして使う。 また、「枕詞」は、ある特定の言葉を導き出すたと								
20	まくらことば <b>枕詞</b>	強めたり、音のひびき を整えたりする働きを		越東海	0	定形 + 句 「導く」+ 右手で「5」+ 左手で「句」	•	に、前置きとして使う。								
20	枕詞	つよめるようになっ た。「あしびきの」、		<b>光</b> 近畿	ア	左手は「和歌」で、右手は「増す」+「和歌」	組み合わせ	9班の案を見ると、複数案があるがく案内・誘導 の表現が意味に合うのではないか。								
		た。「めしいざの」、 「ちはやぶる」などが ある。		中国		の書くしぐさ そのままでよい										
		(百人一首:基本単		四国	0	左手「れ」を少し丸めた形を前向き+その上に		⇒<案内・誘導>+<句> ※東海班の案を参考								
		語)		九州		/5音/ 「句」の右手2指の上に左手2指を乗せる +		A.未得無∨未と <b>ず</b> つ								
				北海	•	禄 + 言葉										
				東北	•	縁 + 単語										
				関東	•	「縁」+「語」		9班の案を見ると、2動作目が「言葉」「単語」								
		意味につながりのある 言葉を入れて、ほかの		北信越	0	禄 + 句		「句」「語」「言う」と複数ある。 標準手話く語>があるので、<縁>と組み合わせ								
21	<sup>えんご</sup> <b>縁語</b>	ことを思い浮かべさせる言葉。		東海	•	「つなぐ」+「句」	● 組み合わせ	表現に。								
	PEI	(百人一首:基本単		近畿	•	「縁」+「単語」	4日17日17日	⇒< <b>₩&gt;</b> +< <b>語</b> >								
		(百人一首:基本単語)		中国	•	想像 + 言葉		※関東、九州班の案を採用								
				四国	•	上下から/繋ぐ/ + /言う/										

	1			11/2/2																				
		一つの言葉に、同じ音		北海道	ア	「句」を品の動きで動かす																		
22	かけことば	を味を込めます。 を主この表現するでは、 を主きないでは、 を主きないでは、 を言葉がいた。 を言葉がいた。 を言葉がいた。 をいるといえそう。		東北	•	単語 + 乗り換え(逆に) 「句」の右手2指の下に左手2指を足す +		OMO安太目でし、複数安なでが、ノ並んでへが発																
				関東 北信	0 0	「音」		9班の案を見ると、複数案あるが、<兼ねる>が意味に合うのではないか。																
				越東海	•	兼ねる + 句 「和歌」+ 両手で「句」を、斜め左右に下ろ	•	⇒<兼ねる・兼任・二足の草鞋(を履く)・二刀																
22	かけことば <b>掛詞</b>	例:ながめ→「長雨 (ながあめ」と「眺			ア	す	組み合わせ	流 >+<言葉>																
		め」、まつ→「松」と 「待つ」など		近畿	,	「重ねる」+「ことば」		※北信越班の案を参考																
		(百人一首:基本単		中国	ア	言葉 + 根																		
		語)		四国	,	/句/ の表現を両手で近づけながら表現する 「句」の右手2指の下に左手2指を足す +																		
			「体言」…学校	九州		「音」																		
			の手話-95	道	•	体言 + 喉に手を当てて声を止める		まずは「体言」を検討することに。あわせて「用言」の手話も要る。																
				東北	•	書く + 単語 + 止め	=	『学校の手話』-95では「体」+かぎかっこ(「言葉」)となっているが、<語>でもいいのではない																
		最後が名詞で終わる		関東	•	「最後(最低)」+「句(右手だけ)」	<体言> 組み合わせ	かとの意見があり検討。																
		形。体言止めの歌は、リズムを強めて、全体		北信越	0	文字を縦書きする仕草 + 末 + 効果	<用言>	⇒<体・身体>+<語> 																
23	たいげんど 体言止め	を引きしめる効果がある。また、余韻をもた		東海	•	「名詞」+「終わり」	組み合わせ	<用言> →<必要>+<語>																
		せることもできる。 (百人一首:基本単		近畿	0	「単語」+ 終わるしぐさ	<体言止め> ●	「体言止め」の9班の案を見ると、最後の部分にな																
		語)		中国	×		組み合わせ?	るほどと思われる工夫が見られる。最後・終わりの 意味をどう表すか検討。																
				四国	•	/体言(学校の手話引用)+上から指先を下ろ 1.左手で止める		⇒<体言>+<最低>の終点の手形(終わりの意味)																
				九州		「最後(最低)」+「句(右手だけ)」		※四国班の案を参考																
			「倒置」…学校	北海	•	倒置 + 方法		9班の案を見ると、上下人れ替える動作が、両手5																
			の手話-101	東北	•	単語 (下に下ろす) + 単語		指の場合と2指(句)の動作に分かれる。 5 指…一般の場合 スカックリー カックリー スカックリー スカックリー スカックリー スカックリー スカックリー スカックリー アン・カー・スカー・スカー・スカー・スカー・スカー・スカー・スカー・スカー・スカー・																
				関東	•	両手「句(2指だけ)」を上下入換える +	<倒置法	2指(句)…和歌の場合 それぞれに分けて検討する ことに。また「法」は「法律」ではなく「方法」の																
		主語と述語を、逆にい		北信	0	(五本指ではなく親指と人差し指で)上下入れ替	(一般の場合)>	意味。 組み合わせなので、1回に。																
24	とうちほう	れかえて、意味を強め ること。		越東海	•	両手で「句」の後、逆にして、「方法」	組み合わせ	<倒置法(一般の場合)>																
	倒直法	ること。 (百人一首:基本単 語)		近畿	•	学校の手話「倒置」+「方法」	<倒置法 (和歌の場合)>	⇒<本末転倒 (2015-72) >の2動作目+<方 法・																
		na/		中国	•	言葉 + 逆	● 組み合わせ	手段> (1回) ※北海道、近畿、四国・九州班の案を採用																
				四国	•	/倒置 (学校の手話引用) + /方法/		<倒置法(和歌の場合)>																
					九州		両手「句(2指たげ)」を上下人換える +   「法」		⇒<句>の手形で<本末転倒>の2動作目+<方法・															
			<句>…2015-	北海道	•	(映像は5世にかっている) 句 + 切る		手段> (1回)																
			74	東北	•	単語 + 切れ	ア アレンジ	9班の家を見ると、左手〈句〉の下で〈切る(はさみで)〉の表現、上下に〈句〉を置いてその間を〈切る〉表現が見られる。 また、切り方も、ハサミ・/など複数ある。何で切																
				関東	•	「句」+ 左手残して手前で「切る」																		
	う 句切れ	意味やリズムが切れる ところ。 (百人一首:基本単語)		北信越	0	句と句の間をハサミで切る仕草																		
25				東海	•	両手で「句」の後、右手で間に斜めを入れる		るか? また、切る位置をどうするか?検討。																
	-5 9540																			近畿	0	人差し指で斜めに切る	,	<b>⇒&lt;句&gt;を上下に置き、上の&lt;句&gt;の下で&lt;切る</b>
						中国	•	言葉 + 切る		>														
					四国	•	左手/句/ + 右手で遮る様子		※北信越班の案を採用															
				九州		「句」+ 左手残して手前で「切る」																		
				北海道	•	本 + 利用 + 歌																		
				東北	•	単語 + 取る(右)+ 単語(右)		9 班の家を見ると、「引用」「そのまま持ってくる」「まね」など複数ある。意味からすると東海班の家が一番合うのではないか? また、「引用」の位置、方向をどうするか?検討。																
		ある歌の一部をそのま		関東	•	「歌」を表現しそこから「句」を左斜め下へ取 る																		
		ま使った歌のこと。本 歌をつくった人が、そ		北信越	0	引用 + 方法																		
26	本歌取り	の歌でよんだ気持ち取り ないないない。 (百人一首:基本単語)		東海	•	身体の斜め前で「和歌」の後、右手で「句」を 体の前に動かす	● 組み合わせ	⇒<短歌・和歌>の右手を斜め前で表し+右手< 句>																
				近畿	0	右手の「コ」の形から小さい「コ」を持ってく		でその位置から左手の下に持ってくる																
						中国	•	言葉 + 取って + 言葉		火車車車の車を発表														
				四国	•	/和歌/ + そこから取って置く様子		※東海班の案を参考																
					九州		「歌」を表現しそこから「句」を左斜め下へ取 る																	
				北海道	ア	つまんだ両掌の場所を入替 + 遊ぶ																		
						東北	ア	「ほ」指文字(両手)+ 右から左に合わせる																
					関東	•	「貝」を左右に開く+「一致」+「遊ぶ」		「貝覆い」とは、現代の「神経衰弱」のような遊び 方のこと。															
	41.44	ハマグリなどの二枚貝		北信越	0	二枚貝 + 拾って合わせる	_	9班の案を見ると、四国班の案が意味に合うのでは ないか。																
27	負養	を二つに分けて、一対 のものを探し当てる遊		東海	•	「貝」「遊び」	● 組み合わせ	⇒<貝>+その手形のまま掌上向きで左右から引																
		び。 (百人一首:歴史)		近畿	0	「貝」+貝を円に並べる様子		き寄せる																
				中国	•	貝 + 合わせる		※四国班の案を採用																
				四国	ア	/貝/ + 両掌を上向きにして並べる様子																		
				九州		「貝」を左右に開く+「一致」+「遊ぶ」																		
				北海道	ア	左手で札を持ち右手で「読む」																		
				東北	•	読む + 左手に右人差し指を向ける 左手軽く丸めて(札)読み、左手(札)を前に																		
		「絵札」と呼ぶことが		関東	0	出す		9班の案を見ると、「札」の表現が形・指差しなど 複数ある。近畿班の表現がシンプルで分かりやす																
_	, ,	あり、 ①歌人の名前、一首		北信越	0	(a) 左手にのせた札を読むしぐさ + かるた (b) 絵 + ふだの大きさを人差し指で表す	•	l'.																
28	読み礼	(上の句と下の句)、 歌人の絵が入っている		東海	•	「読む」「札」	組み合わせ	⇒<読む>+残した左手の指先を斜め上に向けて 軽く																
		のが特徴 (百人一首:遊び方)		近畿	0	「読む」+ 右手で札を差し出す様子		置く (片手だけの表現)																
		(日八 日 . 風 0 7)		中国	•	読み + 礼 計 も 性 って 禁り 様子、 上 引 も 性 って め ノ Z 様		※近畿班班の実を採用																
				四国	ア	札を持って読む様子 + 札を持ってめくる様子																		
				九州		左手軽く丸めて(札)読み、左手(札)を前に 出す																		

	ı			0.00		,					
				北海道	ア	「かるた」の後にそのまま札を持つ形					
	取り礼	「字札」と呼ぶことが あり、下の句だけがひ		東北	•	取る + 左手に右人差し指を向ける		9班の案を見ると、「札」の表現が形・指差しなど 複数ある。近畿班の表現がシンプルで分かりやす			
				関東	0	右手で札を取る仕草をしてそのまま顔の前に。 (a) かるたを取る仕草					
				北信越	0	(b) 文字 + ふだの大きさを人差し指で表す	_	カルタを取る動作が複数見られるが、標準手話  ルタ>を使い、片手だけで表現できるように工夫。			
<sup>29</sup> j		らがなで書かれている 札 (百人一首:遊び		東海	•	「かるた」「札」	組み合わせ	<b>⇒&lt;カルタ&gt;+続けて指先を斜め上に向けて軽く</b>			
		方)		近畿	0	札を取り出すしぐさ + 札を差し出す様子		置く (片手だけの表現)			
				中国	•	取る + 礼		※近畿班班の家を採用			
				四国	ア	/かるた/のアレンジ 左手「レ」で札を表現し /かるた/					
				九州		右手で札を取る仕草をしてそのまま顔の前に。					
				北海 道	ア	「置く」2、3回 +「かるた」					
				東北	•	左手 + いろいろ + 取る					
		百枚の取り札と百枚の 読み札を使って遊ぶ。		関東	0	掌下向きの両手で札がばらまかれている様子を 表してから、札を取る仕草		9班の案を見ると、札を散らして置く動作は、手の ひらを下に向けている班がほとんどだが、上向きの			
		お座敷かるたともい う。百枚の取り札を表		北信越	0	札を混ぜて散らすしぐさ + 取る		方が意味に合う。 カルタを取る動作が複数見られるが、標準手話 </td			
30	ちらし取り	向きに散らかしてお		東海	•	「バラバラ」「かるた」	● 組み合わせ	ルタ>を使うことに。			
		き、読む人は読み札を 上から1ずつ読んでい		近畿	0	札を散らかして取り出す様子		⇒両手掌を上に向けて札を散らしておくようにを 動かし+<カルタ>			
		く。 (百人一首:遊び方)		中国	•	並んで取る		※北海道、東海、近畿、四国班の案を参考			
				四国	ア	両手で札をバラバラに置く様子 + /かるた/					
				九州		掌下向きの両手で札がばらまかれている様子を 表してから、札を取る仕草					
			くかるた>…わ9	北海道	•	「競技」+「かるた」					
				東北	•	かるた + 競争					
		全日本かるた協会が決		関東	•	「競技」+ 札を取る仕草		Q班の安太目スレ ほしんじが同じ事項 エッケ・			
		めているルールにした がって、かるた取りを		北信越	0	競技 + かるた		9班の案を見ると、ほとんどが同じ表現。カルタ 取る動作が複数見られるが、標準手話<カルタ>			
31	きょうぎ 競技かるた	おこなう。1940年から 続いている。一対一		東海	•	「競技」「かるた」	使うことに。				
	M. D. W. C. C.	で、50枚の取り札を 使って勝負する。P136 (百人一首:遊び方)	で、50枚の取り札を		近畿	0	札を並べて取り出す様子	1207 1117 12	⇒<競技・スポーツB>+<カルタ>		
				中国		競技 + 取る		※北海道、東海、中国、四国班の寒を採用			
				四国	•	/競技/ + /かるた/					
				九州		「競技」+ 札を取る仕草					
				北海道	•	「味方」+「団体」		「自陣」とは、自分の競技範囲のこと。 今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあれ あせて検討。 ⇒ <b>〈自分自身〉+〈闡・エリア〉</b>			
				東北	0	右(手)から曲がる	● 組み合わせ				
	自陣	競技かるた用語。 自分の競技範囲		関東	•	「自分」+ 指先下向きで胸の前を左から右へ動かす					
				北信 越	0	自分 + 半分より手前を、人差し指と親指で示す					
32				東海	0	両手で体の前で線を引き、両手を身体の前に跳 ねる					
							近畿	0	左手で輪を作り、右手で自分の方の内側を指す		※関東、九州班の東を参考
						中国	•	線の下 並んでいる			
				四国	ア	/自分/ + 両手で左右に配置した様子					
				九州		「自分」+ 指先下向きで胸の前を左から右へ 動かす					
				北海道	•	「敵」+「団体」					
				東北	0	右(手)から切る(凹む)					
				関東	•	右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす		「自陣」とは、相手の競技範囲のこと。			
		## to 7 t ID=		関東 北信 越	• ©	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す					
33	できじん <b>敵陣</b>	競技かるた用語。 相手の競技範囲		北信	• ©	て左から右へ動かす	● 組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。			
33	てきじん <b>敵陣</b>			北信越		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあ: あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<■・エリア>			
33	できじん 酸陣			北信越東海近畿中国	<ul><li></li><li></li><li></li><li></li><!--</td--><td>て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる</td><td></td><td>今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあれ あせて検討。</td></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあれ あせて検討。			
33	てきじん <b>敵陣</b>			北信越東海近畿	0	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあれ あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<頭・エリア>			
33	できじん一酸体			北館 東海 近畿 中国 四国 九州	<ul><li></li><li></li><li></li><li></li><!--</td--><td>て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねろ 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる</td><td></td><td>今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で&lt;頭・エリア&gt;</td></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねろ 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<頭・エリア>			
33	できじん			北信東海近畿中国四国	<ul><li></li><li></li><li></li><li></li><!--</td--><td>て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにし</td><td></td><td>今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で&lt;頭・エリア&gt;</td></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにし		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<頭・エリア>			
33	できじん 酸体			北越東近畿 中国 九州 北海	<ul><li>⊚</li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにし て左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<聞・エリア> ※四国班の来を参考			
333	できじん一酸酸性			北越海 近畿 中国 九 北道	<ul><li>⊚</li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と製指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにし て左から右へ動かす		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<■・エリア> ※四国班の来を参考			
33	できじんの数は			北越海炎中四九北道東関北	<ul><li>⊚</li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と製指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 足軍 (読みれ) を見て、右手人奉指で場を円く		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったせて検討。  ⇒相手を指差し十相手側の位置で<■・エリア> ※四国班の案を参考  9班の案を見ると、色々な表現があっておもしろい。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前をの右手を左右に振る』動作が分かりやすい。			
				北越海逝中四九十五道東関東北	<ul><li>○</li><li>✓</li><li>✓</li><li>△</li><li>○</li><li>○</li><li>○</li></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と観指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにし てから右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 性さす	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあれ あせて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置で<■・エリア> ※四国班の案を参考 9班の案を見ると、色々な表現があっておもしろ い。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前 きの右手を左右に振る】動作が分かりやすい。			
	Table M <b>敵陣</b>	相手の競技範囲		北越東近中四九北道東 関北越東 田田州 北道東 関北越	<ul><li>○</li><li>○</li><li>✓</li><li>△</li><li>○</li><li>○</li><li>○</li><li>○</li></ul>	て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」 + 「無い」 読む + ない 左軍(読み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 性され 空のぼ + 札		今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったて検討。 ⇒相手を指差し十相手側の位置でく間・エリアン ※四国遊の薬を参考  9班の案を見ると、色々な表現があっておもしろ 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前」 きの右手を左右に振る』動作が分かりやすい。 「礼」の表現は「読み礼」「取り礼」と同表現を い、分かりやすい動作を検討。 ⇒掲先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を			
		相手の競技範囲		北越 東 近 里 四 九 北道 東 関 北越 東		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左撃(読み札)を見て、右手人悪指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 性な土 空っぽ + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったせて検討。  ⇒相手を指差し十相手側の位置で<■・エリアン ※四国班の家を参考  9班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前「注」の表現は「読みれ」「取り礼」と同表現をに、分かりやすい動作を検討。			
		相手の競技範囲		北越海 畿 国国 九 北道 東 関 北越 東 近		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねろ を手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにしてたから右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。  ⇒相手を指差し十相手側の位置で<個・エリア> ※四国班の案を参考  9班の案を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前 できのようを左右に振る』動作が分かりやすい。「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同表現を い、分かりやすい動作を検討。  ⇒指先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を 左右			
		相手の競技範囲		北越東近中四九北道東 関北越東近中四九北道東 東信越海 畿 国国州北道東 関北越東 近 中四四		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と観指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねろ 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにしてたから右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左撃(読みれ)を見て、右手人売指で場を円く指としてから「ない」。次に左手(読み札)を 控させてから「ない」。次に左手(読み札)を 控っば + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 礼 左手(れ)を少し丸めた形を前向きで「札」その上でがいりと表現	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったせて検討。  ⇒相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四国遊の家を参考  9班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前」での五手を左右に振る」動作が分かりやすい。「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同表現をい、分かりやすい動作を検討。  ⇒指先を斜め上に向けて置いた左手の複で右手を左右に振り(無い)十左手を改めて置く			
		相手の競技範囲 その場にない取り札 読まれたれか値かれてい		北越 東 近 国 国 加 州 海道 北 東 信越 海 畿 中 国		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と製指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+ 「無い」 読む + ない 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 性さす 空っぽ + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 礼 左手(礼)を少し丸めた形を前向きで「札」 その上でないと変現 左掌(読み札)を見て、右手入差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったせて検討。  ⇒相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四国遊の家を参考  9班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前」での五手を左右に振る」動作が分かりやすい。「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同表現をい、分かりやすい動作を検討。  ⇒指先を斜め上に向けて置いた左手の複で右手を左右に振り(無い)十左手を改めて置く			
		相手の競技範囲  その場にない取り札  ではない取り札  では、これたのでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、		北越海 遊 国 四 九 州 海道 東 近 海 畿 中 四 国 九 州 加 東 近 海 畿 中 四 国 九 州		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と観指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねろ 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにしてたから右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左撃(読みれ)を見て、右手人売指で場を円く指としてから「ない」。次に左手(読み札)を 控させてから「ない」。次に左手(読み札)を 控っば + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 礼 左手(れ)を少し丸めた形を前向きで「札」その上でがいりと表現	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。  ⇒相手を指差し十相手側の位置で<園・エリア> ※四園班の家を見ると、色々な表現があっておもしろ い。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前 さの右手を左右に振る』動作が分かりやすい。 「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同表現を い、分かりやすい動作を検討。 ⇒指先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を だ振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州班の家を参考			
		一様である。 その場にない取り札 をある。 をあれたれが画面はのは、 では、れたの面は、 では、れたものは、 では、れたものは、 では、れたものは、 では、れたものは、 では、これに、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では		北越 東近 田国 九州 海道 末 東 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と製指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 ねる 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+ 「無い」 読む + ない 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 性さす 空っぽ + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 礼 左手(礼)を少し丸めた形を前向きで「札」 その上でないと変現 左掌(読み札)を見て、右手入差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四国班の案を身着  9班の案を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前「花」の表現は「読みれ」がいわいといい。 「本」の表現は「読みれ」がいれ」と同表現を行い、分かりやすい動作を検討。 →指先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を左右に振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州班の楽を参考  9班の案を見ると、「しまった」「後悔」、手切ったたく、「アウト」など色々ある。悪判の目線ってるか、表現も変わる。悪利も変わる。悪利の目線ってるか、取る人の目線にするかで表現も変わる。悪利の目線にするかで表現も変わる。悪利も変わる。			
		根手の競技範囲  その場にない取り札  では、は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では		北越 東 近 国 工		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 起去 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を空っぼ + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 札 左手(れ)を少し丸めた形を前向きで「札」その上でがいく表現 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をああせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四園遊の家を参考  り班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同長現を「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同長現を「礼」のかりやすい動作を検討。  →指先を斜め上に向けて置いた左手の復で右手を左右に振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州亚の家を参考  り班の家を見ると、「しまった」「後悔」の目のまたたく、「アウト」など色々ある。番判のもる「佐郷」というより「しまった!」の方が合うよに思う。東北、九州班(両手)、四頭班(片手だに思う。東北、九州班(両手)と回知(片手だに思う。東北、九州班(両手)と回知(片手だい。			
34		相手の競技範囲  その場にない取り札  をの場にない取り札  をは逆の陣地の地域のでは、 では、一般では、一般では、一般では、 では、これに、 では、これに、 では、これに、 では、これに、 では、これに、 では、これに、 では、これに、 では、これに、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では		北越海 畿 国 国 州 海道北 東 近越海 畿 国 国 州 海道北 東 近越海 畿 国 国 州 海道北 東 近越海 畿 国 国 州 海道 東 頃 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と観指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 起去 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにしてたから右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左撃 (読み札)を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を控さば + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 礼 左手(九)を少し丸めた形を前向きで「札」その上でないと表現 エチによりを少し、次に左手(読み札)を 地さよ 「かるた」 + 右撃で頭を軽く叩く(失敗) ある(左) + 「頭にしまった」しぐさ(右)	組み合わせ 組み合わせ 組み合わせ	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四園遊の家を参考  9班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前「不見」を表現は「読み利」「取り礼」と同表現を「礼」の表現は「読み利」「取り礼」と同表現を「礼」の表現は「読み利」「取り礼」と同表現を「心力を関して置いた左右に振る」が、分かりやすい動作を検討。  →指先を斜め上に向けて置いた左手の標で右手を右右に振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州遊の家を参考  9班の案を見ると、「しまった」「後悔」、手のほったたく、「アウト」など色々ある。審判の目象。するか、取る人の目線でするかである。事刊の目象。するか、取る人の目線にするかで表現も変わる。			
34	空礼	相手の競技範囲  その場にない取り札  では、		北越海 畿 国 国 州 海道北 東 贤 北越 東 近 国 国 州 海道北 東 信越海 畿 国 国 州 海道北 東 信越 東 近 国 国 州 海道 北 東 信越		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左撃(跳み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 控させてから「ない」。次に左手(読み札)を 埋させてがいたを現した場合では、その上でないと表現 に正子「礼」を少し丸めた形を前向きで「札」その上 でないと表現 左撃(読み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 無いましてから「ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ ● 組み合わせ く に存す を に に に に に に に に に に に に に	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置で<■・エリアン ※四国遊の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前 さの右手を左右に振る」動作が分かりやすい、 「礼」の表現は「読み札」「取り札」と同表現を い、分かりやすい動作を検討。 →指先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を 左右 に振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州遊の家を参考  「経順」というより「しまった」「後順」、手の をたたく、「アウト」など色々ある。 審判の目線 するか、取る人の目線にするかで表現も変わる。 「後順」というより「しまった」の方が合うよ に思う。東現が分かりやすい。 あたりは、カ州遊の家を見ると、「たまった」の方が合うよ に思う。本が、カーボーに関手)、四回班(片手だ け)の表現が分かりやすい。 あわせて「しまった」の標準手話が無いので、確ご			
34		相手の競技範囲  その場にない取り札  ではない取り札  ではない取り札  ではないでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で		北越海 近東 五 東 五 東 五 東 五 東 五 東 五 東 五 東 五		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と観指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を控さば + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 札 左手(れ)を歩元に引き、「札」 でないと表現 に示すれ」を少し丸めた形を前向きで「札」その上でないと表現 に示すれ」を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 行さいしたり、ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ 組み合わせ く保存手のき くお手	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四国遊の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前 さの右手を左右に振るし動作が分かりやすい、 「九」の表現は「読み礼」「取り礼」と同表現を い、分かりやすい動作を検討。 →治先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を 左右 に振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州遊の家を参考  「というより「しまった」「後悔」、手の娘 するか、取る人の目線にするかで表現も変やうる。 「後悔」というより「しまった!」の方が合うよ に思う。表現が分かりやすい。 両手にするか、片手だけう表現にするか検討。 あわせて「しまった」の標準手話が無いので、確 することに。 くしまった〉			
	空礼	相手の競技範囲  その場にない取り札  でまれたれが適に対してれる。  ではない場合ではないのには、できない場合である。  では、おいるでは、できない。  では、相手に、は、自体に、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は		北越海 畿 国 国 州 海道北 東 贤 北越 東 近 国 国 州 海道北 東 信越海 畿 国 国 州 海道北 東 信越 東 近 国 国 州 海道 北 東 信越		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左撃(跳み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 控させてから「ない」。次に左手(読み札)を 埋させてがいたを現した場合では、その上でないと表現 に正子「礼」を少し丸めた形を前向きで「札」その上 でないと表現 左撃(読み札)を見て、右手人差指で場を円く 指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 無いましてから「ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ ● 組み合わせ く に存す を に を を を を を を を を を を を を を を を を を	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあったで検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四園遊の家を参考  9班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『指先前に「礼」の表現は「読みれ」「取り礼」と同表現を行れ、分かりやすい動作を検討。  →指先を斜め上に向けて置いた左手の横で右手を左右に振り(無い)十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州班の家を参考  9班の家を見ると、「しまった」「後悔」、手のはたたく、「アウト」など色々ある。審判の目線するか、次番、四国、九州班(両手)、四国班(片手だけ)の表現が分かりやすい。両手にするか、片手だけの表現にするか検討。あわせて「しまった」の標準手話が無いので、確することに。			
34	空礼	相手の競技範囲  「ないい取りすれ、いないの場にないの場にないの場にないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、は、ないのでは、ないのでは、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないので		北越海 近東 五 東 五 東 五 東 五 東 五 東 五 東 五 東 五		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と観指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 左手で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにして左から右へ動かす 「かるた」+「無い」 読む + ない 左掌(読み札)を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を控さば + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 何もない + 右手で札を出す 無い + 札 左手(れ)を歩元に引き、「札」 でないと表現 に示すれ」を少し丸めた形を前向きで「札」その上でないと表現 に示すれ」を見て、右手人差指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を 行さいしたり、ない」。次に左手(読み札)を	組み合わせ 組み合わせ く保存手のき くお手	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をある あせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリアン ※四国遊の案を参考  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
34	空礼	相手の競技範囲  その場にない取り札  でまれたれが適に対してれる。  ではない場合ではないのには、できない場合である。  では、おいるでは、できない。  では、相手に、は、自体に、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は		北越海 畿 国 国 九 北道 東 斑 東 近 中 四 五 州 海道北 東 信越海 畿 国 国 州 北道 北 東 信越海 畿 国 国 州 北道 北 東 信越 海 畿 東 近 東 近 東 近 東 近 東 近 東 近 東 近 東 近 東 近 東		て左から右へ動かす 向こう側を、人差し指と親指で示す 両手で体の前で線を引き、両手を身体の先に跳 起子で輪を作り、右手で自分の外側を指す 線の上 並んでいる /あなた/ + 両手で左右に配置した様子 右手を前方で立て、その場所で指先下向きにしてたから右へ動かす 「かるた」 + 「無い」 読む + ない 左撃・(読み札)を見て、右手人墨指で場を円く指さしてから「ない」。次に左手(読み札)を控っま でっぽ + 札 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 両手で箱(札)を手元に引き、「札」 両もない + 右手で札を出す 無い + 礼 左手(九)を少し丸めた形を前向きで「札」その上でないと表現 に乗いれるとしてから「ない」。次に左手(読み札)を控っます。により、ない」。次に左手(読み札)を増さます。	組み合わせ 組み合わせ く保存手のき くお手	今ある手話を使えないか、「自陣」「敵陣」をあれるせて検討。  →相手を指差し十相手側の位置でく園・エリア〉 ※四国遊の案を参考  り班の家を見ると、色々な表現があっておもしろい。 「空」は、東北、近畿、四国、九州班の『持ちにある。現立に「読み札」「取り札」と同表現は「読み札」「取り札」と同表現は「読み札」「取り札」と同表現は「読み札」「取り札」と同表現を信に振り、分かりやすい。 「社会・一本生を対して置いた左手の機で右手をに振り(無い)・十左手を改めて置く ※東北、近畿、四国、九州班の案を参考  り班の家を見ると、「しまった」「後悔」、目録にするか、以手だけ、りなど色々ある。審判の目名によっか、取りよりより、は関う。東北、カ州班(両手)、四国班(片手に関う。東北、カ州班(両手)、四国班(片手だけの表現によう。大州班(同年)にするか、片手だけの表現にするか検討。あわせて「しまった」の標準手話が無いので、確定することに、 →く失敗A〉と同じ			

				小小	Ì			
				北海道	•	「赤」+「白」+「喧嘩」		9班の家を見ると、 「源平」…紅白、左右に向き合う、左右に分かれる などがある。
				東北	ア	かるた + 作戦		
				関東	0	両手を立てて向い合せる +「試合」		
		二つのチームに分かれ		北信越	0	二手に分かれて + 戦争	_	「合戦」…<試合><戦争><けんかA・太刀打ち>などがある。
36	源平合戦	て行う。 (百人一首:遊び方)		東海	•	両手で「50」を左右に前に突き出し、「かる た」	● 組み合わせ	「試合」にするか「戦争」にするかで意見が分かれたが、北信越班の、二手(ふたて)に分かれて+<
		(日人一日:班び万)		近畿	•	「赤」+「白」+「合戦」		戦争> の手話がいいということに。
				中国		分けて + 勝負 or 試合		⇒<分かれる・隔離>+<戦争>
				四国	•	両手で左右に/場/ + /試合/		※北信越班の案を採用
				九州		両手を立てて向い合せる +「試合」		
				北海道	ア	「禿」+ 両手で札をめくり重ねて引き寄せる		
				東北	ア	坊主 + 成る		9班の案を見ると、ほとんどが同じ表現だが、「坊主」の表現が微妙に異なる。また、「札をめくる+
				関東	•	場の札をめくる仕草 + 頭をなぜる + 「遊		運」も意味を考えた表現で面白い。
		取り札を使わない。お		北信越	0	坊主 + 札をめくる仕草	<坊主>	「坊主」は以前から使われている表現があるので、
37	ばうず 坊主めくり	坊さん、女性、男性を めくって見分ける遊		東海	0	「坊主」+ 札をめくる仕草	保存手話	それを採用することに。(標準手話のラベル無し)
	力士のくり	び。 (百人一首:遊び方)		近畿	ア	「坊主」+ 札をめくる動作	<坊主めくり> ●	< 坊主 > ⇒ 右手掌で頭を前から後ろへなぞる
		(ロヘー日:姓い万)		中国	•	取って + 運	組み合わせ	<坊主めくり>
				四国	•	頭を丸めた様子 + めくる		⇒<坊主>+札をめくる動作 ※東北、東海、近畿・九州遊の案を採用
				九州		場の札をめくる仕早+頭をなぜる +「遊ひ」 (動画では「坊主+札をめくる」となってい		
				北海		Z)		
	文	『わたしたちの手話 (5)』 - 43 に標準手話 あり。そのままとする か、新しい表現を加え るかご検討ください。		道		変更なし	そのまま	9班の案を見ると、標準手話のままでよいとしているため変更なしとするため、動画は出さない。
				東北	•	文		
				関東		「文」		
				北信越	保	(テキスト通り)		
38				東海		「文」(そのまま)		
				近畿	×	標準手話でOK		
				中国		そのままでよい		
				四国	×	/文/		
				九州		「文」		
		標文を出する。 様文をのの特別を対している。 はするなでものです。 ではずるなでものです。 ではずるなでものです。 ではできないです。 ではできないです。 ではできないでする。 ではいいではいいでする。 ではいいではいいでする。 ではいいではいいでする。 ではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではい		北海道	ア	両手「句」を上下に置き、上下に離す		9班の案を見ると、色々な表現があり、工夫の跡が 見られる。<カリを使う班もあるがく複合語><熟 語>などもあり、区別できる表現がほしい。近機班 の案が合うのでは。 → <節目>と同じ ※近機班の案を参考 あわせて「文節」「音節」も必要であり検討することに。
			を構成する、述語と D項からなるまとま Dことで、その中で	東北	0	文 + 文 + 文	<節>	
				関東	0	左手「句」の下で右手「句」を数回下ろしてい		
				北信越	0	句 + 句(縦に表現)		
39	節			東海		指を斜めに下ろす		
				近畿	ア	「節目」の節の部分のみ		
				中国	×		<音節> 組み合わせ	<
				四国	0	両掌を上下に向い合せ 区切りを表現する	12.7 2 17 2	
				九州		左手「句」の下で右手「句」を数回下ろしてい		<音節> ⇒<音(おと>・音(おん)>+<節目・節>
				北海道		変更なし		
				東北	•	言葉		
				関東	0	「言う」+「句 (2指だけ)」		
		『わたしたちの手話 (5)』-52、『新しい手		北信	保	(a) テキスト通り		
40	3 kri	話 I 』 -44 に標準手話 あり。そのままとする		越	保	(b) 口元で両手の人差し指を前後	その±±	9班の案を見ると、標準手話のままでよいとしてい
40	言葉	か、新しい表現を加え		東海		「言葉」(そのまま)	そのまま	るため変更なしとするため、動画は出さない。
		るか検討してくださ い。		近畿	×	標準手話でOK		
				中国		そのままでよい		
				四国	×	/言葉/		
				九州		「言う」+「句(2指だけ)」		